

教団新報

定 価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 長 崎 哲 夫
編集主筆 渡 邊 義 彦
印刷所 株式会社きかんし



下浜教会 《雪の中の会堂（奥羽教区、秋田地区）》

向こう岸に渡ろう



《ルカによる福音書
8章22～25節》

メッセージ

雲然俊美

主イエスの呼びかけ

「向こう岸に渡ろう」、主イエスは弟子たちに呼びかけられました。「向こう岸に渡ろう」、主イエスは私たちに呼びかけておられます。弟子たちと同様に、私も主イエスの呼びかけに

主イエスの平安

さて、弟子たちが舟の上で慌てふためいていた時、主イエスは、何と眠っておられました。弟子たちは主を起さなければなりません（23～24節）。この主の「眠り」は、主イエスの平安を意味しております。私たちはこの主イエスの眠りに、確かな平安を見

主の十字架による救い

弟子たちは大変な思いをしつつも、主のみわざを目の当たりにし、ようやく「向

一人の人との出会いから

私たちの伝道もまた、多くの力を注ぎ、労苦しても、なかなかその実りを得ることができない現実を抱えております。けれども、明らかに、そのような労苦の中で出会った一人からこ

主が共におられる礼拝

また、昨年、兼牧している下浜教会のクリスマス礼拝に向かう途中、雪道でスリップした車が道路をふさいだため、礼拝時間に30分も遅れて到着するということがありました。

主のみ声に聞き従って

主イエスは私たちに、「向こう岸に渡ろう」と促しておられます。主ご自身がそのようにおっしゃったのですから、その困難な旅路に

風と荒波の中で

弟子たちは船出ししました。しかし、その舟路は決して楽なものではなく、風

の中で悩み、嘆き、苦しむ時、主イエスはのんきに眠っておられるのでもありません。この主イエスの眠りこそは、まことの平安のありかを示しているのです。

主イエスが弟子たちの叫びにこたえて起き上がった時、主イエスはのんきに眠っておられるのでもありません。この主イエスの眠りこそは、まことの平安のありかを示しているのです。

働きは大きな実りとなったのでしょうか。そうではありませんでした。むしろ、そこでは、悪霊に取りつかれ、その地の人々から遠ざけられていた人と出会い、

そのような時に、私自身が、また教会が新たな方向に進むのを進めるきっかけとなったのは、まさに一人との出会いによってでありました。

それは、教会の近所の子どものとの出会いであったり、障がいを負っている方とその家族との出会いであったり、また、高齢の方との出会いといったことでし

かつてその湖で漁をする中で人生の旅路を歩んでいることを知らされます。そも、その彼らが、「先生、おぼれそうです」（24節）と慌てました。彼らのそれまでの「経験」はもはや頼りにならなくなったのです。思いがけない困難が襲う時、改めて私たちは、地図

もなければ道案内もない中で人生の旅路を歩んでいることを知らされます。そも、その彼らが、「先生、おぼれそうです」（24節）と慌てました。彼らのそれまでの「経験」はもはや頼りにならなくなったのです。思いがけない困難が襲う時、改めて私たちは、地図

そのたった一人の人を救ったのみでありました（26節以下）。さらに、そのことによつて主イエスと弟子たちは、せつかくの思いで辿り着いた地を早々に引き上げなければならなくなつたのです。

すなわち主イエスは、その一人の人を捜し出し、出会い、救うために出かけたのです。主はその一人の人の命と人生を回復する

た。そのような出会いに、とにかく真向かいに向かう中で、新たな道が開かれて行きました。

決して効率の良いことではありません。まさに、「二人」でありました。

思い描いていたのととはまったく違う現実と直面することもあると思います。けれどもそれが、主が私たちに出会わせようとしておられる出会いであります。私たちは、行き詰まりを覚え、立ち止まり、うずく



「あなたは、何を見に荒野へ行ったのか。風にたおやかにそよぐ水辺の葦、着心地の良い服を着飾った高貴な人々だったか。主の問いかけにどう答えるであろうか▼荒野では熱風が吹きつければ、昨日咲いていた花も今日はもう枯れている。水の豊かな国に暮らす者には想像できない厳しさかもしれない。では、私たちが、十字架の死により、ご自分の命をもって救い出してくださいました。それは、愛に満ちた自己犠牲の行為ということに留まるものではなく、神に敵対する罪人であった私たちを神との和解に至らせる、まことに深い神の愛によるものでした（ローマ5・10）。

人々」との出会いの積み重ねであります。けれども、その「二人」は、その存在をもって主なる神の恵みを証する、なくてはならない「二人」でありました。

その日、3人でささげたクリスマス礼拝において、主のご臨在を深く覚える恵みの聖餐に共にあずかりました（マタイ18・20）。

まる中でこそ、主のみ声に聞き従うことに集中するのである。共に、「向こう岸に渡ろう」との主のみ声に聞き従い、一歩を踏み出してまいりましょう。

（第38総会期教団総会書記、秋田桜教会牧師）



左:3 教会(左からカトリック元町教会、函館ハリストス正教会、日本聖公会函館聖ヨハネ教会)、右:教団函館教会



北海道函館市の西部地区元町において、昨年9月29日(土)午後、キリスト教各教派による合同企画「元町・教会めぐり」が行われた。一般市民に、音楽を通じてそれぞれの教会の伝統や特色に触れていただくという、一昨年に続く2回目の試みであった。函館は、安政5(1858)年(1858年)における開港5港(箱館、新潟、神奈川、神戸、長崎)の一つで

土曜日の午後1時30分、

函館「元町・教会めぐり」2012

各教派合同企画によるツアー

いちばん坂下に位置する教団函館教会からツアーは始まった。参加者はほぼ170人、各教会で待機していた人々を加えると最終的には250人を越えたであろう。

函館教会の今年のテーマは、「讃美歌に聴く作曲家たちの祈り」。讃美歌のメロディーをおとて有名な作曲家の作品に出会うという趣

旨である。教会沿革の簡単な紹介のあと、讃美歌2編95番『わがこころよ、いま』と、讃美歌30番『朝風、静かに吹きて』を取り上げられた。

2箇所目は、2百メートルほど坂を上ったカトリック元町教会で、教会所属聖チェチリア混声合唱団によってクレグリオ聖歌、フランス聖歌、日本の典礼聖歌

が演奏された。

次いで50メートルほどさらに上に位置する日本聖公会函館聖ヨハネ教会。ここではアングリカンチャントによる「タベの祈り」がほとんど式文とおりにさげられた。

最後は、道を挟んで聖ヨハネ教会の西隣にある函館ハリストス正教会に移動し、「晩課」と呼ばれるロシア・ビザンチン聖歌による祈りに参加した。

幕末当時から函館の玄関口であった元町地区には、奉行所や各国領事館が置かれており、宣教師保護の上からこの地域に教会が集中した。1858年、ロシアから渡来した正教修道司祭フィラレトに始まり、翌1859年フランスからカトリックのメルメ・カシヨン神父が、1874年には米国メソヂスト教会からメリマン・コリバート・ハリ

ス監督、イギリス英国聖公会からウォルター・デニング司祭が相次いで来日し、文字通り東、西、北から世界のキリスト教各派が函館で出会ったのである。

4教会の会堂もそれぞれの伝統を背景にした特徴的な建築物である。ハリストス正教会の聖堂は1916年に建てられ、国の重要文化財に指定されている。カトリック元町教会の木彫の手彫り祭壇は、大火で消失した聖堂を1923年に再建した折に、時のローマ教皇ベネディクト15世から寄贈されたという稀有のものである。わが函館教会の会堂も1931年に建てられ、市の歴史的景観形成建築物に指定されている。

しかし、異国情緒あふれる街並みを形成するこれらの建築物も観光資源としての役割は果たしつつも、地域住民の間からは「会堂内に入る機会も少なく、中に入ってもよいのか、いつ入ったらよいかわからない」「まだ一度も中を覗いたこともない」という声がかかることも多かった。そこで、観光客だけでなく地元

の市民に呼びかけ、会堂の中に入っていたかどうかというのが、合同企画の出発点であった。

函館教会では、讃美歌の旋律の由来を紹介しながらブラームスの『コラール前奏曲第五番』(讃美歌2編95番の旋律を含む)をパイプオルガンで演奏したあと会衆賛美、メンデルスゾーンの『無言歌集第2巻第9番』(讃美歌30番の旋律)のピアノ演奏後に、会衆賛美という内容。前者の歌詞では「聖餐式」の意味、後者では作詞者のストウ夫人が祖母から受け継いだ信仰を紹介した。音楽愛好家だけでなく郷土の歴史に関心を寄せる人、教会を覗いてみたい人など広範囲の人々を対象にした欲張った解説であった。

教団函館教会以外はいずれも「国教会」の伝統を持つ教会である。国教会と言

うと伝道はしない、と考える向きもあるが、伝道地日本における宣教師たちの命懸けの伝道の遺産は、信仰に基づく教育、医療、福祉の各分野に及び、人権意識の啓発、人格形成、世論形成等をおとて近代日本の文化形成に大きく寄与した。家族への信仰継承などは信仰が極端に個人化してしまつた我々が失つたものを今なお保持している。

他教派信仰者・教職者との直接の触れ合いから受ける刺激には極めて大きいものがあつた。

(松本紳一郎報／函館教会伝道師)

母国語で御言葉を、賛美を

ドイツ・ベルリン日本語教会から

ドイツ、ベルリン。この東西分断を乗り越えた未曾有の歴史を持つヨーロッパの国際的大都市にも日本語教会があります。

80年代に日本人牧師の呼びかけで始まつた日本語礼拝は、ささやかながらも主に守られ導かれて今日まで歩みを続けてきました。礼拝に集う人々は、在独数十年という方から留学生、ご家族の転勤に伴って、ワーキングホリデーの方、旅行者、日本語や文化に興味のある外国の方など実に様々です。

しかしながら大都市とはいえ邦人数は決して多くはなく、街中で日本人に出会うことは非常に稀です。そんな中いかに教会の存在を

多くの人に知ってもらうか、試行錯誤しながら皆で心を砕く日々です。

言葉や食事、習慣、気候など海外生活は予想以上に不安や困難が多いものです。教会にも人とのコンタクトを切実に求めて来られる方や、疲れた日常の中ふと昔の教会学校を思い出し

て行ってみようと思つて、という方も多くいます。この規模では毎回新来者があふれるのは驚きです。母国語で御言葉を共に聞き共に賛美することは、本当に深い慰めと励ましとがあるのだということこそ外国語教会の牧師としても痛感しています。

教会は、月2回の礼拝と聖書研究祈祷会などを軸に活動しています。信徒同士も情報交換を密に取り交わしつつ、助け合う良き交わりが続いています。

海外受洗者も多く、信仰背景は実に多様です。それゆえに教会形成の意識は希薄で教会理解も各自で全く捉え方が異なるため、これまで何度か教会の存在自体を揺るがすような事態もありましたが、その違いを神さまからの恵みとして活かしつつ、どう教会の群れとして歩んでいけるかが私たちの引き続きの課題といえるでしょう。

数年前から2度にわたり「教会とは何か」とのテーマで、礼拝や御言葉、奉仕、賛美、伝道などを学ぶ機会を与えられ、キリストを礎とする信仰共同体、礼拝共同体、宣教共同体として教会一同思いを確認できたことは主からの大きな祝福です。海外教会ゆえ流動性が高く、役員会など教会組織もなく礼拝出席平均も10名ほどの小さな群れですが、ここに教会があることの意味を喜びのうちに分かち合い、ここで私たちにしかできない証しをしていくことができれば素晴らしいと思います。

単なる教勢拡大という視点からは決して見えてこないであろう主の豊かな秘められたご計画が、今日まで変わらなく続くこのベルリン日本語教会にはあると感じています。海外生活が続く中30年ぶりに日本語での聖

餐に与ることができた、と喜ばれた女性、家族のような教会です。ねと仰つた求道者の方。こんなに私のために祈つてもらえたのはここが初めてです、と日本へ帰国していった方。主によって時かれた福音の種がこの地に育ち根付いていくよう願うばかりです。

小さな私たちの教会ですが、現地教会や外国語教会との豊かな交わりは尽きることもなく与えられ本当に感謝です。エキシメニカルな視点を持つ現地教会は無償で礼拝場所を提供して下さい、合同礼拝やバザー、合同聖研祈祷会などは毎年恒例となりました。

また、私たちが覚え助けてくださるベルリン宣教局や東アジア伝道会の多くのドイツ牧師先生方は、実によく日本事情にも通じておられ、日本や日本語教会のため深く祈って下さいま

す。教会の規模ゆえどうしてもできることに限界がありますが、ベルリンに日本語教会がある、ということ

を現地教会、他の外国語教会がポジティブに受け止めて暖かい交わりに招いて下さることは大きな励みです。20を超える教派や外国語教会で守るペンテコステ合同礼拝や韓中日合同礼拝など、これまでも様々に私たちが関わることができており、教会一同開かれた共同体としてよい刺激と交わ

り、学びの機会になっています。

ここにきて私も在独10年を迎えました。宣教師として派遣されて9年目。これから先どのような道を主が備えて下さっているのか全く分かりませんが、主が用意してくださる限り、賜物を精一杯生かしてこの地で宣教に励みたいと日々思いを強くしています。

また、多くの日本の方々

が世界宣教委員会発行の『共に仕えるために』や信



上:日本語教会の皆さんと
下:中国語教会が礼拝を守っている
ホーエンツォレルンプラッツ教会
(Kirchengemeinde am Hohenzollernplatz)での韓中日合同礼拝

理事長に藪田氏を再選

第1回年金局理事会

第38総会期第1回年金局理事会が1月25日(金)教団会議室で開催され、教区代表理事、東京教区支区代表を含め24名(北海教区欠席、九州教区代理出席、沖縄教区欠員)が出席した。

理事長には招集者である藪田安晴理事が推薦され、満場一致で再選された。常任理事に池田浩二、川原正言、長崎哲夫(総幹事)、中林克彦、足田國磨各理事が推薦され、承認された。

常任理事会の下に、従来通り制度検討諮問委員会と資産運用諮問委員会を置き、中林常任理事が制度検討諮問委員長に、川原常任理事が資産運用諮問委員長に推薦され、承認された。

資産運用に関して以下の報告がされた。

米国、欧州、中国の景気後退の影響を受け、円高で日経平均株価は低迷を続け、資産運用環境は厳しい状況であった。外部の専門家から将来の経済の見通し等についてレクチャーを受け、それを参考にしながら資産運用の実行をしてきた。12月の政権交代後は急速に円安が進み、株価が1万1千円に近づいた。その結果、年金局有価証券の評価が好転してきたが、まだマイナスである。

昨年10月開催の第38回教団総会で「資産運用実績は評価するものの、評価損の圧縮を進めること」との意見がでた。これを受けて資産運用諮問委員会は、より積極的な評価損解消策を実施することを検討しており、次回理事会に具体策を提案することとした。

制度検討諮問委員会は、「教団年金10年のあゆみ」(年金制度設立から10年の続編を発行することを決め、その内容の検討を進めていると報告した。

各教区代表理事・支区代表からは謝恩日献金の目標額に対する達成率をあげるための色々な工夫が窺える報告があった。東日本大震災被災教区は、復興にまだまだエネルギーが要り、経済的にも厳しい状況にあるが、教団年金を成長・成熟

させたという強い願いで、教区がまた各教会が献金を献げていることに頭が下がる。また、年金協力金という形で献げる教区もある。

1月下旬現在の謝恩日献金額は約3200万円で目標額の29・6%で、昨年度とはほぼ同水準である。

全理事・支区代表が教団年金に対する熱い思いを共有し、今年度残り2カ月間にまだ献金していない教会にアピールすることを確認し、半日の理事会を終えた。(櫻井淳子報)

1月10日、教団救援対策本部が主催し、東北教区被災者支援センター・エマオ石巻が協賛した新春コンサートが、被災地である宮城県石巻市で行われた。

この企画は、昨年の夏の終わり、新日本フィルの現役奏者とその仲間たちが私たちに申し出て実現したものです。鈴木隆太さん(ピアノ)、山口幸子さん(ヴァイオリン)、渡辺玲雄さん(コントラバス)、田中成行さん(ファゴット)の4人の奏者が2台の車に分乗し、石巻を訪れました。演奏会

は、午前中は石巻栄光教会附属栄光幼稚園(小鮎實園長)で、午後は津波に襲われた石巻市立石巻小学校(鈴木則男校長、夜は石巻山城町教会(関川祐一郎伝道師)が会場でした。幼稚園は50名の園児と保護者、小学校は300名の児童と保護者、そして教会は厳寒の中を訪れた50名を超える地域の人々が観客でした。

この4つの楽器の組み合わせは珍しいものでしたが、本当に素晴らしい演奏でした。特に、夜の部の石巻山城町教会では、ヴァイオリンとコントラバスによって演奏された「チャルダッシュ」が終わると、観客がスタンディング・オベーションを送るほどでした。

今回の企画の中心となった鈴木隆太さんが、会場に向かう車の中で言われた言葉に次の様なものがありました。「僕は、このような演奏をしながら、ふと考えることがあります。音楽がどこまで被災者の方々の心の深い傷を癒すことが出来るのかと」。

この言葉は、私の心に残りました。そして、あの、被災者である観客のトランスによって演奏された「チャルダッシュ」が終わると、観客がスタンディング・オベーションを送るほどでした。

今回の企画の中心となった鈴木隆太さんが、会場に向かう車の中で言われた言葉に次の様なものがありました。「僕は、このような演奏をしながら、ふと考えることがあります。音楽がどこまで被災者の方々の心の深い傷を癒すことが出来るのかと」。

この言葉は、私の心に残りました。そして、あの、被災者である観客のトランスによって演奏された「チャルダッシュ」が終わると、観客がスタンディング・オベーションを送るほどでした。

今回の企画の中心となった鈴木隆太さんが、会場に向かう車の中で言われた言葉に次の様なものがありました。「僕は、このような演奏をしながら、ふと考えることがあります。音楽がどこまで被災者の方々の心の深い傷を癒すことが出来るのかと」。

この言葉は、私の心に残りました。そして、あの、被災者である観客のトランスによって演奏された「チャルダッシュ」が終わると、観客がスタンディング・オベーションを送るほどでした。

今回の企画の中心となった鈴木隆太さんが、会場に向かう車の中で言われた言葉に次の様なものがありました。「僕は、このような演奏をしながら、ふと考えることがあります。音楽がどこまで被災者の方々の心の深い傷を癒すことが出来るのかと」。

消息

川島正行氏(三里塚教会主



担任教師) 12年9月25日逝去、79歳。

千葉県に生まれる。'64年農村伝道神学校を卒業。同年三里塚教会に赴任。遺族は妻・川島豊子さん。山添順二氏(隠退教師)



12年12月13日逝去、80歳。大阪府に生まれる。'58年東京神学大学大学院を修了。同年品川教会に赴任、板橋教会、熊谷教会、下谷教会

を経て、'08年まで岩槻教会を牧会し、隠退した。遺族は妻・山添和加さん。喜田典雄(つねお氏(撰



津富田教会担任教師) 12年12月14日逝去、96歳。

兵庫県に生まれる。'37年福井高等工業学校を卒業、'00年受允、'02年撰津富田教会に赴任し、牧会した。遺族は娘・石田和美さん。深渡重秀氏(紀伊岩出伝道



所主任担任教師) 12年12月29日逝去、62歳。

和歌山県に生まれる。'79年和歌山大学を卒業、'96年受

允、'98年受按、'96年粉河教会に赴任、'99年紀伊岩出伝道所を開設し牧会した。遺族は妻・深渡博子さん。星野 勉氏(宮古島伝道所



主任担任教師) 12年12月31日逝去、65歳。

沖縄県に生まれる。'71年農村伝道神学校を卒業、'72年実働教会に赴任、海南教会を経て、宮古島伝道所を牧会した。



柴田作治郎氏(隠退教師)

13年1月10日逝去、85歳。北海道に生まれる。'66年同志社大学大学院を修了、同年西沢教会に赴任、石巻本町教会、長岡教会、河内松原教会、小樽公園通教会を経て、11年まで小樽望洋台伝道所を牧会し、隠退した。遺族は妻・柴田みどりさん。

入江清弘氏(隠退教師)



13年1月14日逝去、80歳。

岡山県に生まれる。'58年同志社大学大学院を修了、同年天満教会に赴任、福岡上東橋教会を経て10年まで香椎教会を牧会し、隠退した。遺族は息・入江清晃さん。

事務局報

教師異動

鷹巣 辞(主部 雅二

就(代)佐々木久慶

伝道所開設

立川からしだね 立川市高

松町3-12-22春樹ビル

2F

八王子ベテル 八王子市西

寺方町725へ通信先:

八王子市式方町735

15 千原創方

お詫び・訂正

新報4766号4面「人

ひととき」欄、文中「白川教

会を」白河教会に、お詫び

して訂正いたします。

共に祈り、支えよう!

Let us pray for and support people and the Church together!

「東日本大震災救援募金」のお願い

教会の再建・補修、地域の復興・支援に向けての具体的な取り組みを日本基督教団として支援していくため、祈りと共に「東日本大震災救援募金」にご協力を下さいますよう、お願い申し上げます。

記

目 標 額 10億円(国内のみ)
期 間 2011年7月1日～2015年3月31日
振替番号 00110-6-639331
加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31
2013年2月

教団救援対策本部長 石橋秀雄

台湾基督教長老教会
(TEL) 048-647108
62 関東教区事務所
◆西東京教区「東日本大震災救援募金チャリティコンサート2013」
3月9日(土)14時、阿佐ヶ谷教会「ヴァイオリン」蜷川いつみ、チェロ井上とも子、ピアノ奥山初枝
有料
(TEL) 03-5305139
91 西東京教区事務所

東日本大震災関連
記念行事日程

◆奥羽教区「東日本大震災2年を覚えての礼拝」
〈秋田地区〉3月9日(土)13時、秋田高陽教会「説教者」赤田直樹
〈北東地区「青森」3月10日(日)14時、大三沢教会「説教者」東山道晴
〈北西地区「青森」3月10日(日)14時30分、弘前学院チャペル
〈岩手地区〉3月10日(日)14時30分、宮古教会「説教者」小田島久子、新生釜石教会「説教者」生馬陽子、大船渡教会「説教者」邑原宗男
(TEL) 019-622157
70 奥羽教区事務所
◆東北教区「3・11東日本大震災記念礼拝」
3月11日(月)12時30分、仙台東一番教会「説教者」小西望
◆活動報告「大阪教区派遣医師・山崎知行」
(TEL) 022-222109
98 東北教区事務所
◆関東教区「記念礼拝」
3月11日(月)14時、宇都宮上町教会「説教者」秋山徹
◆「フェスト」布興大立・台湾基督教長老教会
(TEL) 048-647108
62 関東教区事務所
◆西東京教区「東日本大震災救援募金チャリティコンサート2013」
3月9日(土)14時、阿佐ヶ谷教会「ヴァイオリン」蜷川いつみ、チェロ井上とも子、ピアノ奥山初枝
有料
(TEL) 03-5305139
91 西東京教区事務所

主の召しに応えて

伝道のともしび

12月24日、教会に与えられるプレゼント

郡中南教会牧師 小林 秀樹

現在、会員は10名、礼拝出席は8名ほど、教区の互助を受けながら、その歩みを続けています。この10年で、5名の会員を天に送りました。一時は大きな悲しみを感じましたが、その後、受洗者や転入者も与えられ、ただただ感謝した、ということもありました。



再会を喜ぶ光景も見られます。子どもたちを交えて礼拝



教会学校生徒と教師による讃美(燭火礼拝にて)

以後、少しずつ24日夜の出席者は増えていきます。知人を誘ってきたり、会員が自分たちの子どもたちを連れてきたりするようにもなりました。普段は部活などで教会学校に来れない子どもも来たりして、

書きのポスターを貼ることぐらいしか、周囲への案内はできませんでした。ロウソクを20本近く用意したものの、時間になって来たのは会員ばかり4名、せっかくだからと用意したロウソクの全てに火をつけて、讃美歌を歌ったり、御言葉を聴いたりしました。

この3月で、私がこの地に赴任してちょうど10年となります。初めての任地であったこともあり、着任当初は10年後に自分がどうなっているか、全く想像がつかないことなど、懐かしく思い出されます。

生時代に聖書の言葉にふれたことがある、という方が入ってきた。掲示板のポスターを見て、行ってみようと思ったとのこと。地方の小さな教会は、新来会者もほとんどなく、このように教会を訪ねて下さる方がいる、ということとは、どれほど嬉しいことかと感じたひとときでした。その後、この方は毎年、24日の夜には来ておられます。

10年前、着任した当時は、このようなことになることは、思ってもいませんでした。小さな教会であっても、確かにここにも、神が来て下さっていると感ずることができる時であります。



山田 昌人さん

伝道者養成に仕える信徒



東京生まれ、東京神学大学事務長、聖ヶ丘教会員。

山田さんは「聖ヶ丘教会に育てられたという思いがある」と語る。中学生のときから教会に通い、地の塩会(中高生会)に所属し、聖歌隊に入った。また西南支区音楽部の一員として、近隣教会の集いを奉仕して回った。

大学生のとき通っていた桐生

東部教会で受洗、卒業後、再び聖ヶ丘教会に通うようになり、転入会した。ほどなくして山北

宣父牧師が副牧師に迎えられ、青年会活動が活発になっていった。そのことが「東京神学大学」との出会いにも結びついていった。聖書・教会・キリストについて、より深く学びたいという思いから、青年会の友と、東京神学大学夜間神学講座に通うようになった。

うになった。「神学とは教会に仕える学問である」と当時の竹森

満佐一学長が開講式で語られた

言葉は今でも「学び」の原点であるという。この夜間講座で出会いが与えられ、光子さんと結婚した。

その後転勤などもあったが、1996年以来、再び聖ヶ丘教会に通うようになった。

山田さん夫妻の目標として共通するのは「整えられた礼拝・「学び」を通して、キリストと教会に仕える姿勢である。そのことは教会奉仕にも現れている。山田さんは執事や聖歌隊、光子さんは奏楽奉仕、CS教師と教会事務を通して教会に仕える

ている。

山田さんが、会社の定年後まもなく、東京神学大学総務課職員

の急募があり、気持ちがあれば履歴書を送るよう、牧師より勧められた。それまで自ら伝道者として献身する決断はできずにいたが、伝道者養成の働きに係わることができると、この勧めを神の導きと受けとめた。

現在、東京神学大学事務長の働きを通して、次代の教会を担う伝道者育成のために祈り、献身している。「牧師がいない時代、教会に献身者が一人でも多く起こされ、東京神学大学に送ってほしい。教員・職員全員の強い願いである」と語る。

わたしが今牧している教会は、牧師館がないので、自宅から車で通っている。

ある日教会に来たら、郵便受けにメモが入っていた。それにはこう書いてあった。「わたしは75歳の男性でAと申します。キリスト教の信仰に入りたいと思います。これから、日曜日の礼拝に来ますのでよろしく願います」。

次の礼拝後、Aさんは初めての対話で、できるだけ早く洗礼を受けたい、と言ったのに驚いた。事情を聞くと、Aさんは10年前に妻を亡くしたが、彼女はクリス

チャンであった。今、自分は癌にかかって余命数か月と言われている。死んだら妻のいるところに行きたい。彼女は、駅に近い別の教派の教会に属していたが、自分は

妻のいるところに 行きたい

葬儀の時以外その教会には行ったことがない。それに、病気が進行することを考えると、家から歩いて数分のこの教会がよいと思うので来まして、と言った。

それから、Aさんは毎週礼拝に美しい。(教団総会副議長 伊藤瑞男)

こどもさんびか改訂版 刊行10周年 記念感謝礼拝

教会の1年―神さまに祝福されて

- 日 時 2013年4月13日(土)
- 会 場 早稲田奉仕園スコットホール
- チャレン 飯塚拓也/古賀 博 眞壁 蔵/吉岡光人
- 奏 楽 飯 靖子
- 持ち物 『こどもさんびか改訂版』

- ★参加申込不要、どなたでも参加できます。
- ★来場者全員に、オリジナルグッズをプレゼント。
- ★点字プログラム、手話通訳があります。

ローティーン向け キリスト者伝記シリーズ

ひかりをかかげて レイチェル・カーソン

いのちと地球を愛した人 上遠恵子



地球の悲鳴を聴き取り続けた海洋生物学者レイチェル・カーソン。彼女の生涯を、カーソン研究の第一人者がローティーンに語りかける。

●A5判 並製・128頁・1,260円

ニューセンチュリー聖書注解
コブレトの言葉(第10回配本)
R・N・ワイブレイ 加藤久美子訳
定評ある英国の堅実な注解書。各単元に注目しながら、メッセージを丁寧に解説。
●A5判 上製・304頁・4830円

神学は語る(第3回配本)
たとえ話
デイヴィッド・B・ガウラー 駒木亮訳
神学者たちが重ねてきた議論を紹介し、「たとえ話」研究の最先端へ読者を導く。
●A5判 並製・202頁・2730円

日本キリスト教団出版局 新刊・イベント案内